

平成19年度 経営評価及び意見について
(報告)

平成20年10月

国際児童文学館 経営評価委員会

国際児童文学館 経営評価委員会

委員長	須	田	寛
委員	中	村	桂子
同	原		昌
同	松	園	萬亀雄

大阪府立国際児童文学館及び財団法人大阪国際児童文学館の平成19年度施設及び事業の経営評価並びに主な意見は次のとおりです。

記

1. 総合評価

評価区分 B 概ね顧客満足度を満たしている。

2. 国際児童文学館経営評価委員会での主な意見

(1) 事業目標の設定の仕方及び評価について

- ・財政的な制約のなかで、子どもの成長にとっても、また国内の児童文学研究者への資料提供に関しても、地道だが重要な仕事をしていること、府民にとって重要な文化普及活動を行い、一定の効果をあげている。
- ・平成19年に策定された中期計画に基づいた活動について、定性および定量的目標を定めた自己評価をすることで、的確な活動が行われ成果をあげている。
- ・数値では100%のものも内容をみた場合、もの足りなさを感じるものが多い。目標の立て方に若干甘さがあるように思われる。
- ・広報活動がどの程度、組織的に行われているかが、よくわからない。広報活動全般について、どの程度の予算が使われているのかもわからない。広報戦略について新機軸を打ち出す可能性についてご考慮いただきたい。
- ・読書活動推進のためには、単独の活動では広がりがなく、連携と協働が今日的に最重要課題と思う。そのため、ボランティア団体、学校図書館・公立図書館など読書活動関係者のネットワーク作り、連携と協働が重要であるが、それが自己評価基準に入っているのかどうかははっきりしない。
- ・外部資金の獲得について、さらに検討していただきたい。

(2) 評価に関連して提起された課題

- ・自主評価は項目ごとに記載するだけでなく、それに加えて全体的な年度の自主評価書を作成していただければ有り難い。
- ・府民に貴館が大いに利用され好評を得ていることを対外的にアピールするためにも、これまでのアンケート資料を積極的に活かす方法はないものでしょうか。

(3) まとめ

- ・他に類を見ない児童文学館として、日本の子どもたちすべてが本から学び心豊かに育つ核となるよう、より広い活動を行い、この館の存在価値をより高めるよう一層の努力を求めたい。